

5/12-18#21:召会の奥義:CP1:I.エペソ3:3-11が啓示しているのは、私たちが召会の奥義としてのキリストを経験し享受することができるということです。II.神の隠された、定められた御旨は、奥義です。そして、この奥義を開くことは、啓示です。聖書は、奥義の啓示について語っています:3:5 その奥義は、今や彼の聖なる使徒たちと預言者たちに、霊の中で啓示されていますが、別の世代では、そのように人の子たちに知らされていませんでした。6 それは、キリスト・イエスの中で、異邦人が福音を通して、共に相続人となり、共に一つからだとなり、共に約束にあずかる者となることです。9 それはまた、万物を創造された神の中に、各時代にわたって隠されてきた奥義のエコノミーが何であるかを、すべての人を照らして明らかにするためであり、10 今、天上にある支配たちや権威たちに、神の多種多様な知恵を、召会を通して知らせるためであり、11 神が私たちの主キリスト・イエスの中で立てられた、永遠の定められた御旨にしたがっているものです。Aキリストの奥義である召会は、別の世代では隠されていましたが、新約の時代において啓示されています。Bこの奥義は、各時代にわたって神の中に隠されていましたが、しかし今や、新約の信者たちは、照らされたので、それを見ることができます。C1キリストと召会に関する新約の啓示は、ミングリングされた霊によって、使徒たちと預言者たちに明らかにされます。2私たちの霊が神聖な霊とミングリングされるとき、私たちの霊は、キリストの奥義が啓示される器官となります。1コリント6:17 しかし、主に結合される者は、主と一つ霊になります。Eローマ16:25と26でパウロは、奥義の啓示について語っています:「イエス・キリストについての宣べ伝えにしたがって、世々にわたって沈黙のうちに保たれてきた奥義が啓示されることにしたがって...この奥義は今や現され」。神のエコノミーは、神ご自身を彼の選ばれた人々の中へと分与することであって、宇宙における神の完全な表現のために、神の御子の拡大としてのからだを生み出すためです。このことより偉大なものは何もなく、このことより重要なものは何もしません。... 私たちが思いにとどまっているなら、神の啓示を見ることはできませんが、私たちが霊に向きを変えるなら、神の奥義のビジョンを持つようになります。

祈りおお主イエスよ、神のエコノミーは、神ご自身を彼の選ばれた人々の中へと分与することであり、神の御子の拡大としてのからだを生み出すためです。霊の中でこの奥義のビジョンを見ます。

CP2:III.第七のラッパは、手順を経た三一の神の永遠のエコノミーの結論として、現在の奥義の時代を

閉じます。このゆえに、啓示録10:7は言います、「神の奥義は完成される」啓示録10:7しかし、第七の御使いが声を発する日、彼がラッパを吹こうとしている時に、神の奥義は完成される。神が彼の奴隷である預言者たちに、福音を宣べ伝えたとおりである」。Dキリストご自身、召会、天の王国、福音、キリストの内住、この奥義の時代の終わりとしての聖徒たちの来たるべき復活と変貌は、すべて世々にわたって隠されていた奥義です。コロサイ2:2 それは、彼らの心が慰められ、彼らが愛の中で結び合わされ、理解力から来る全き確信のあらゆる豊富へと至るため、すなわち、神の奥義なるキリストを知る全き知識へと至るためです。E第七のラッパが吹かれるとき、これらすべての奥義は完結され、完成され、過ぎ去ります。F第七のラッパが吹かれるとき、地に対する神の激怒の裁きだけでなく、神の奥義も完成されます。Gキリストが肉体と成ったときから千年王国までの時代、すなわち、召会時代、恵みの時代においては、あらゆることが奥義です:1キリストの肉体と成ることは奥義です。それは奥義の時代の開始です。2キリストは神の奥義です。3召会はキリストの奥義です。コロサイ1:27は言います、「神は彼らに、異邦人の間にあるこの奥義の栄光の豊富がどんなものであるかを、知らせたいと願われました。それはあなたがたの内にいますキリストであり、栄光の望みです」。信者として、私たちは内住するキリストを内側に持っています。しかし、私たちが持っているこのキリストは奥義です。キリストは私たちの中に生きておられますが、世の人々は、彼が私たちの中におられることを認識していません。彼らにとって、これは奥義です。しかし、キリストは奥義的ですが、召会はキリストの現れです。キリストのからだとして、召会はキリストの表現です。私たちは召会を見るとき、キリストを見ます。祈りおお主イエスよ、召会時代、恵みの時代においては、あらゆることが奥義です。今日、時代が変わり、神の奥義が完成する前に、信仰によって、霊の中で、神の奥義を認識し、経験します。CP3:IV.召会の奥義は、宇宙における究極の奥義です:A召会は、神の永遠のエコノミーにおける隠された奥義です:6私たちの霊は、強くて知恵と啓示に満ちている必要があります。それは私たちが召会の奥義を認識するためです。B偉大な奥義、すなわちキリストと召会は、宇宙と人生の意義です:2神の心の願いは、キリストの奥義、すなわち、キリストの増し加わりと表現としてのキリストのからだを持つことです。3からだの生活は、私たちの霊的経験の究極的な満足です。5キリストの

奥義と召会の奥義は、私たちの日ごとの生活であるべきです。この奥義がなければ、私たちの生活は人の生活にすぎず、クリスチャンの生活ではありません。**1テモテ3:15** それは、もし私が遅れた場合、神の家の中でどのように振る舞うべきかを、あなたに知ってもらうためです。神の家とは生ける神の召会であって、真理の柱また基礎です。**16** そして確かに、偉大なのは敬虔の奥義です。この方は肉体において現され、霊において義とされ、御使いたちに見られ、諸国民の間に宣べ伝えられ、世の人の中で信じられ、栄光のうちに上げられた。私たちはクリスチャンの生きるべき生活について知りたいなら、キリストの奥義について知らなければなりません。キリストの奥義は、私たちの日常生活であるべきです。この奥義がなければ、私たちの生活は人の生活にすぎません。それはクリスチャンの生活ではないでしょう。クリスチャン生活は奥義であり、この奥義はキリストと関係があります。このキリストはすでに私たちの命として、私たちの中におられます。彼は日ごとに私たちの中で生きておられます。日常生活の中で、積極的であれ消極的であれ、楽しくてもつらくても、あらゆることがこの奥義の表現であるべきです。

証 ビジネス・パースンとして、私は昇進の名誉や金銭欲の情欲が激しく渦巻く環境の中で、どのように、「召会の奥義を人生の意義とする」のかを証します。私は30歳で就職して最初の会社で、上司や先輩によく、「真剣さが足りない」と言われました。彼らの意味は、「他の人は金や名誉のために必死でもがいているのに、あなたは欲がなく、やる気がない」と言うことでした。私は何度も言われたので、主と交わると、出世や金銭欲の情欲がなくても、真剣に働く必要があるというのは正しいので、悔い改めて彼らの言うことを受け入れる必要があったと感じました。私は祈りました、「私は金銭欲がなくても、やはり真剣に働き、業績を伸ばし、会社に貢献し、上司に信頼される必要があります。現時点で、私は彼らにあまり信頼されていません。私は悔い改めます。主の中で、主と共に、主の証のために勤勉に業務を行うことができますように」。私は上司の指摘を主からのものとして取って、学ぶことができました。

その後、真剣に働くようになってから、サタンは、「夜の付き合いに参加して、上司と人間関係を作らないと、左遷され、最後にはクビになる」と脅してきました。私は解雇されると家族の生活や召会にも影響すると考えると、暗い気持ちになりました。しかし、キリストと召会のビジョンを思い出し、自分自身と主に向かって祈りました、「おお主イエスよ、

私はここで、私の中に啓示されたキリストと召会のビジョンを否むことはできません。仮に、この奥義のビジョンの故に解雇されても、私はビジョンを認めません。私は自分自身と私の全生涯を再びあなたに捧げます。私が世の中の人々と反対の証を立てることができるよう」。私はサタンが攻めてくるたびに、このように独り言のような祈りを何千回としました。その結果、私は一度も解雇されませんでした。それどころか、絶対に会社に残らなければならない人材のリストに何時も載っていました。私は天のビジョンに従った祈りは必ずかなえられると確信しました。最初祈っている時は、もしかしたら失敗するかもしれないと思いながら祈っていましたが、その後の主の臨在と祝福の故に、現在は確信をもって祈っています。また、これらの時、私は苦難の中で以下の御言葉を何度も読み、祈りました。そうすると、私の目が開かれ、新鮮な啓示と供給を受けることができました。**マタイ6:25** だから、私はあなたがたに言う。自分の命のために何を食べようか、何を飲もうかと、また自分の体のために何を着ようかと、思い煩ってはならない。命は食物にまさり、体は衣服にまसारではないか？ **26** 空の鳥を見なさい。それらはまくことも、刈ることも、倉に集めることもしない。それなのに、あなたがたの天の父は、それらを養っておられる。あなたがたは、それらよりもはるかに貴重ではないか？ **27** あなたがたのうちのだれが、思い煩ったからといって、自分の身の丈に一キュビトでも加えることができるか？ **28** また、なぜあなたがたは、衣服について思い煩うのか？ 野のゆりがどのように生長するか、よく考えてみなさい。それらは労苦もせず、紡ぎもしない。 **29** しかし、私はあなたがたに言う。栄華を極めたソロモンでさえ、これらの一つほどにも着飾ってはいなかった。 **30** 今日はここにあって、明日は炉に投げ入れられる野の草を、神はこのように装ってくださるのだから、あなたがたにはなおさら、着せてくださらないはずがあるろうか？ あなたがた信仰の小さい者よ。 **31** こういうわけで、『何を食べようか？ 何を飲もうか？ 何を着ようか？』と言って、思い煩ってはならない。 **32** なぜなら、これらの物はすべて、異邦人が切に求めているからである。あなたがたの天の父は、これらの物がすべてあなたがたに必要であることを、ご存じなのである。 **33** むしろ、まず父の王国と父の義を求めなさい。そうすれば、これらの物はすべて、あなたがたに加えられる。 **34** こういうわけで、明日のことを思い煩ってはならない。明日は明日自身が思い煩うからである。その日の苦労はその日だけで十分である。